

## 2012 年度後期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント —経済学研究科—

経済学研究科長 木村周市朗

アンケート調査に対する大学院学生諸君の協力に感謝します。

2012 年度後期の大学院全体の集計結果は、前期と同様に、どの項目についてもおおむね高い評価を得られたものと判断いたします。

平均値の高い諸項目からみて、今期においても、一般に、教員は「授業時間を有効に利用」して「授業への熱意」を示し、「総合的に」高く評価できる授業内容であったと学生諸君が感じていたことが窺われます。これは、徹底した少人数制による相互交流型授業の大きな成果であるといつてよいでしょう。

全体としての高い評価の中で、相対的に評価が低めに出た項目は、前期と同様に、14)「予習または復習をよくした」、6)「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」、の 2 項目です。

これらの項目の平均評点について、2011 年度の前期・後期・2012 年度の前期・後期を並べて経年推移を見てみると、14) は 4.13 → 4.22 → 4.31 → 4.36 と次第に改善されてきており、授業時間外の学修が深まっていることが視えます。一方、6) は、4.43 → 4.45 → 4.49 → 4.47 ですから、今年度さらに改善されることが期待されます。

また、4)「休講または教員の遅刻が多かった」の項目は、4.58 → 4.53 → 4.56 のあと、当期は 4.69 とかなり顕著に改善されたことは、好ましい点です。

こうした点を踏まえて、大学院担当教員全員が今後も絶えず努力を重ね、履修者との対話を通じて学修意欲をますます喚起するような授業を展開することが期待されます。